宮崎小学校だより

洗心

～日々新しく～

令和７年度　No.２

５月

前日の雨が上がって、さわやかな５月の空の下、体育大会を行うことができました。

今年のスローガンは、「みんながかがやく主人公」。このスローガン通り、子どもたちが考え、判断し、計画して練習し、振り返るという、まさに子どもたちが主語となって一連の活動をやりとげました。

例えば、全校で行った種目「しっぽ取り合戦」も、子どもたちの発案によるものです。種目の内容を決めただけではありません。練習の進行も、作戦を考えるのも、振り返りも、子どもたちによって行われました。

もしかすると、はなやかで見ばえがする競技は他にあるかもしれません。けれども、子どもたちは自ら考え、すすんで活動し、自分たちの手で体育大会をつくり上げました。その過程では、悩んだり苦労したりしながら多くを学び、共に楽しみ、自信をもつことができました。その姿は、何にも勝る輝きを放っていたと思います。

学校教育目標「自ら学ぶ　共につくる」に向けて

1　主体的な学びづくり　　2　創造的な学びづくり　3　成長を支える環境づくり

の三つを重点目標に、教育活動に取り組んでいます。今回は「2　創造的な学びづくり」より、「児童が主体となる学校生活」の実践をお知らせします。

〇子どもたちが主体的に考え、自ら判断・決定し、すすんで活動できるように
〇伝え合って理解し合い、互いを認め合えるように
〇試行錯誤しながら、共に学ぶ過程を大切にできるように

このようなことを意識しながら、体育大会への準備は進められました。

子どもたちの思いや考えを尊重し、先生方は子どもたちの活動を根気よく見守りました。けれども、ただ見ていただけではありません。

練習の後にはしっかりと振り返りの時間を設定し、どこまでできたか、何が課題か、この後どうするかを考えるようにしました。リーダーの子どもたちは、その状況を昼の校内放送で全校児童に伝えました。

計画について振り返るだけでなく、なかまのがんばりや成長の様子を認め合い、感謝のメッセージを伝え合うことも継続して行われました。

こういった学習の過程には、子どもたちの学びや成長の姿があふれています。その様子をつぶさに記録し、学びの足跡を自覚できるように残していきました。

このような掲示物が、校内のあちこちに貼り出されています。子どもたちは「こんなことができるようになった」と、自分の成長を確かめて、きっと次の学習や活動に生かしてくれると思います。